

## 正しい選択、賢い選択

平成 28 年 4 月

沼尾 利郎



碌山美術館（夏）



碌山美術館（冬）

### 1 碌山美術館

冬の休暇を利用して、雪の信州へ小旅行をしました。松本城を見学してから信州ソバを堪能し、JR大糸線に乗って安曇野の自然や温泉などを十分に満喫することができましたが、この地域はまた美術館や博物館が多いことでも知られており、中でも碌山(ろくざん)美術館

はレンガ造りで教会風の建物にツタのからまる美しい外観から、安曇野の象徴的存在として有名です。今回初めて訪れたこの美術館は小ぶりの建物が点在するこじんまりとした構成で、建物の古さと周囲の自然がよく溶け合いとても居心地の良い空間でした。人影もまばらな冬の美術館の落ち着いた雰囲気の中で、好きなだけ滞在することができました。

シーズンオフに地方の美術館を訪れると、観光客も少なくじっくりと作品を鑑賞することができます。以前に十和田市現代美術館へ行った時もやはり冬でしたが、「大きいおばさん」（スタンディング・ウーマン）の大きさに驚いたり、奈良美智や草間彌生などの作品を観てから「十和田バラ焼き」（十和田のソウルフード）を食べてとても満足しました。同じ現代アート的美術館である「金沢 21 世紀美術館」と似た雰囲気を感じたのですが設計者が同じ人物と後で知り、妙に納得したことを今でも覚えています。



「女」（重要文化財）

## 2 萩原碌山の選択

碌山美術館は、地元の安曇野出身である明治の彫刻家「萩原碌山（本名は守衛）」の作品を収蔵する小さな美術館です。碌山は躍動感あふれる作風により日本近代彫刻の扉を開いた人物として知られ、30歳という若さでこの世を去った彼の遺作である「女」は近代彫刻史上の最高傑作と言われ、日本の近代彫刻として初めて重要文化財に指定されています。両手を後ろで組

み、ひざまずいて何かを求めるように上を向いているその姿は、観る者の想像力を様々に刺激します。哲学的というか宗教的というか、鑑賞者のイマジネーションを自在に膨らませるところが、この作品の素晴らしい点なのでしょう。どこから観ても傑作としか言いようのないものでした。

ところで、「女」以上に私が魅かれたのは「北條虎吉像」という肖像彫刻でした（こちらも重要文化財）。これは明治期の地方の名士をモデルとした地味な作品ですが、落ち着いたやさしい眼差しの中に内面の剛毅さを感じさせ、ある種の哀しみまで漂わせた人間性がにじみ出るような彫刻でした。この人物の対する碌山の心情（尊敬の念）が十分に感じられ、肖像彫刻の傑作と言われる理由が実感できました。碌山はもともと画家志望であり、20代後半に彫刻へ転向してわずか4年ほどの間にこのようなすばらしい作品を残したのですから、彼の人生の選択は間違いなかったということなのでしょう。



「北條虎吉像」（重要文化財）

### 3 正しい選択

「選択」といえば、私たちの日常は選択の連続であると言えます。学校や会社、結婚などの大きな選択から、毎日着る服やランチのメニューなどの小さな選択まで、大小さまざまな選択の中で私たちは生きています。子供の時から私たちは、学校で「正解」あるいは「正解に近い答え」を求められてきました。そのために、答えに迷った時には「間違いうリスクの少ない方」や「大人の期待する答え」を先回りして選んできたように思います。このような思考は「判断基準が自分よりも他人にある」ということであり、たとえどんな選択をしたとしても「これで本当に良かったのか？」という迷いが常に残ってしまいます。

個人的な経験から言えることは、「客観的な正しさ」なんて誰にもわからないのですから「正しい選択など存在しない」「正しい選択に悩むよりも、選んだ選択を正しくする努力をすることが大事」と開き直すしかないと思うのです。

世の中には、

正しい結果をもたらす正しくない選択もあるし、

正しくない結果をもたらす正しい選択もある。

(村上 春樹)



#### 4 賢い選択

近年の医療の世界では、「正しい」「正しくない」という（不毛な）議論を離れて、「医療の賢い選択」を促す世界的な動きが広まっています（Choosing Wisely）。これは米国内科専門医機構財団が 2011 年から提唱しているものであり、医師自身が医療のプロとしての自律的な取り組みとして、「現在行われている検査や治療などが本当に必要なのか、過剰な医療になっていないか」をきちんと検証した上で、「有限である医療サービスを真にニーズのあるものに向けていこう」という動きです。日本では徳田安春先生がこの取り組みの代表者として活動されていますが、この考えは現在一般的になっている「EBM（医学的根拠に基づく医療）」という概念からもう一段階進んだ「VBM（患者さんの価値観に基づく医療）」という思考にも通じるものです。すなわち、VBM では患者さんの利益ばかりを大きくするのではなくそれに伴うリスクやコストとのバランスを大切にして、患者中心の医療を維持しながらもそれを支える地域や国全体のことにも考えるという発想です。

「地球温暖化」や「医療費の高騰化」「廃棄食料の増大化」などにおいても、「無駄を減らして限りある資源を有効活用する」という「賢い選択」は、これもある種のイノベーション（革新）と言えるかもしれません。

